

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成26年11月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771601974		
法人名	社会福祉法人こぼと会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
サービス種類	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型共同生活介護 ・介護予防認知症対応型共同生活介護 		
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成26年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 家庭的な雰囲気の中で 心と心が通い合うケアをめざし
「たとえ物忘れがあっても身体が不自由になっても、人として尊重され、その人らしい暮らしが保障されるホームでありたい」をたんぽぽの運営理念とし、家庭的な雰囲気の中で、プライバシー・プライベートを大切にしながら、ホームの主人公である入居者の暮らしをお手伝いします。
- 【運営理念の具体化】
- ・入居者を生活主体者として尊重し、そのひとらしい暮らしの実現に向けて援助を行います。
- ・地域の人々に支えられ、自由に出入りできるよう開放的なホーム運営を行います。
- ・入居者、家族、職員、地域住民の声を大切にした運営を行います。
- ・地域高齢者の暮らしの問題と向かい合い、安心できるまちづくりを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所理念や運営方針に加えて、理念の実践に向けた行動指針(チェックリスト)を作成し、ユニットごとに別途定めた年度方針を年2回総括し、理念の実践に向けて、法人と事業所全体で取り組んでいる。地域とのつながりにおいては、消防訓練で地域の消防団等住民に参加してもらったり、山一夏祭り盆踊り大会での模擬店の出店に利用者や家族と共に取り組んだり、職員が出前講座で地域福祉に貢献するなど事業所が積極的に地域とつながりを深めている。また、事業所や地域の行事、家族会などを通じて家族との絆を深め、運営面においても家族から様々な要望や提案、助言を引き出し、運営の改善等サービスの向上に活かす取り組みを行っている。

食堂や居間など共用スペースでは、ユニットごとに掲示する「文字」や「絵図」を利用者の認知能力に合わせて調整し、利用者の認知機能の低下を防止したり、ストレスなく過ごせる工夫をしている。また、エレベータ前のスペースを利用して、利用者間のコミュニケーションが図れるようソファ、机を置き、カフェスペースとするなど、利用者本位の事業所作りに取り組んでいる。さらに敷地内の畑では、ジャガイモ、サツマイモ、大根など様々な野菜を利用者が職員と一緒に栽培し、収穫している。芋掘りは系列の保育所の園児との交流の場ともなっている。ターミナルケアは利用者及び家族の希望に沿った対応を行っており、協力医療機関(主治医)とチームで24時間対応できる支援体制をとることが可能であり、これまで10名の利用者を事業所内で看取ってきた。

事業所は福祉避難所として吹田市の指定を受けており、地域の社会資源として貢献度も高く、不測の災害に備えて、プロパンガス、発電機、レトルト食品等の備蓄をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針・総括会議および上半期の中間総括を通じて、ホームとしての理念の理解を深めそれに基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。また、理念に基づく運営方針に「地域の人々に支えられ、自由に入出りできる開放的なホーム運営を行います」「地域高齢者の生活問題と向かい合い、安心できるづくりを目指します」と挙げ、実践に努めている。	事業所独自の理念とともに理念に基づく運営方針を作成している。これらとともにユニットごとに年間の方針を作成し、中間総括会議（9月）、方針総括会議（4月）で総括し、事業報告を行なっている。職員には理念の実践に向けて支援方法等をより具体化したチェックシートを作成し、理念の共有とその実践に役立てている。理念を事業所の玄関に来訪者に分かりやすく掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	山田第1小学校での盆踊りでは、出店も含め積極的に参加している。山田高校の吹奏楽コンサート、伊射奈岐神社秋祭りなどにも出かけている。	山一夏祭り盆踊り大会での模擬店出店や伊射奈岐神社の秋祭り、地域の催しに利用者と一緒に参加している。また、山田高校吹奏楽部の演奏会、ピクニック、夕涼み会、長月会、忘年会などの事業所行事に地域住民を招いている。日頃は、自治会への加入はないものの、散歩の際に挨拶を交わしたり、地域の人たちに誰でも気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけするなど地域との積極的な交流に努めている。	地元自治会に加入し、地域密着型サービス事業所として有する福祉情報を地域住民に提供し、様々な機会を通じて周知していくことが望まれる。特に福祉避難所として市の指定を受けていることは、地域住民にとっても大きなメリットであり、共に地域福祉の発展に取り組んでいけるよう更なる取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	吹田市の社保協の地域活動にも参加し、高齢者の生活問題解決に向けて吹田市への要望書などに取り組んでいる。また地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	吹田市コミュニティー協議会会長、福祉委員シルバーアドバイザー、PTA会長、公民館長、保護司、社会福祉協議会CSW、家族の方々の理解と協力を得て、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。また、防災訓練等の協力依頼を運営推進会議を通じて活用しサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催している。PTA会長・地域包括支援センター職員・民生委員・利用者の家族など12名ほどが参加している。会議では、事業の実施状況やヒヤリハット・苦情などの報告を行なったり、運営に関する評価や取り組みに対し助言を受けている。議事録は主任会議等で報告し、サービス向上に向けて取り組んでいる。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員による部会を設け、サービスの質の向上に向けて様々なテーマで意見交換、学習会を行っている。また、介護保険制度展示会を開催して事業所の内容、役割を来場者に説明している。</p>	<p>グループホーム事業者連絡会に加入している。会議には吹田市職員が参加して市役所内会議室で行なっている。市職員を交えて様々な意見交換を行ない情報を共有している。介護フェアへの協力等は他事業所や市の担当者との連携を深めるのに役立っている。個別の支援相談は、専ら地域包括支援センターへ相談している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>主任会議内やフロア会議内で、身体拘束をしないケアの実践について学ぶ機会をつくり、実践に努めている。</p>	<p>学習会や各会議で身体拘束をしないケアの実践について話し合いを行ない、身体拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ない身体拘束については家族等に同意を得るようにしている。センサーマットを使用している利用者もいる。安全面を最優先させ、玄関は常時施錠しており、帰宅願望のある利用者には職員が一緒について外出するようにしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>理念において、虐待はあってはならないものと位置づけ、理念に基づいた支援を目指している。また、定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事がないよう啓発に努めている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会は今のところもない。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い、質問、要望などに応えている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。また、介護相談員の訪問を受け、利用者の思いを引き出す協力を得ている。提案、アドバイスを受けたなかから実践にむけて取り組んでいる。</p>	<p>家族とは、来訪時や運営推進会議や家族会に出席した際に運営面における意見や要望を聴き取っている。利用者の日々の暮らしぶりなどを伝える「たんぼぼだより」を毎月発行したり、事業所や地域の行事に協力してもらうなど、家族が意見や提案をしやすい関係を築いている。利用者には日頃のコミュニケーションを通じて要望等を聴き取るよう努めている。聴き取った意見等は職員間で検討し、改善に向けて取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月のフロア会議、年2回の全体会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。また、個別の面接も実施している。</p>	<p>ユニット会議や全体会議など定期的実施される会議の他、管理者は年に2回職員に対してヒアリングを実施し、職員の意見や提案の聴き取りを行なっている。脱衣室の床を滑りにくい材質に変更するなど、改善に向けた提案を運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>定期的に個人面談を開催し、仕事に対する思いや、提案、意見等を聞き取ることにより努めている。年に一度は法人全体の取り組みとして職員に課題を課してレポート提出をしてもらっている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>就業前のオリエンテーションを実施し、ユニットだけに止まらず、事業所の一職員と位置づけ業務に入ってもらっている。また職員一人ひとりの働く姿勢や、実践に細かく目を向け、それに合わせて研修参加や学ぶ機会の確保に努めている。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>吹田市GH特定施設部会、吹田市地域ケア会議、21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会に所属し、会合、研修、交流会に参加している。老福連分科会では毎回レポート発表を行っている。また、交流の機会にはできるだけ参加しネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてのサービス向上の取り組みに努める。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前には管理者と現場主任が自宅を訪問し、本人に聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者と現場主任がご家族と情報交換を行い、要望、希望などの把握に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の状態をしっかりとアセスメントし、本人の要望を大切に必要なサービスとケアに努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事や掃除、余暇時間など生活の行為を共にする事で、アセスメントや関係性を深め、支援につなげている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の際などに、本人の普段の様子、状態の変化など、情報交換を密に行いながら、ご家族が来所しやすい環境を作る。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族やお知り合いの方々の面会を歓迎している。又、馴染みの場所へも可能な限り行ける様、計画を立てて支援している。</p>	<p>猫カフェや甲子園への野球観戦など馴染みの場所とのつながりを継続できるよう支援に取り組んでいる。一方で、近隣の喫茶店に月1回通っており、利用者にとっての新たな行きつけの場となっている。</p>	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、入居者の関係性についてもアセスメントを行い、レクリエーションや家事などを通して、交流できる場を意図的に作っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が訪ねて来て下さったり、転院先の病院への面会を行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、ご本人ご家族の希望や意向をお聞きし、それらの情報を随時記録に残しスタッフ全体で共有しケアを行っている。また言語での訴えが難しい方に対しては、関わりの中での反応など、ノンバーバルのコミュニケーションから得た情報も大切にケアを行っている。	利用者担当制を採っており、担当職員が主にその利用者の希望や意向を聞き取っている。また、介護相談員の協力を得て聞き取る取り組みも行なっている。利用者からの聞き取りが困難な場合は、家族から聞き取ることで対応している。聞き取った内容は、業務日誌、介護記録に記入し、日々のケアに活かしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際に生活歴の聞き取りを行っている。また、入居者やご家族に、生活歴の中でのエピソード等を細かく聞き取りヒストリーノートというものを作成している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を中心に過ごし方や状態の把握を行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族に希望や要望を随時聞き取りを行っている。また、月に1回のユニット会議にて、ケアスタッフの意見を徴収。その上でケアプランの作成にあたっている。	面会時に家族から要望等を聞き取り、3ヶ月に1回利用者本人、家族を含めたカンファレンスを行っている。また個別ファイルの介護記録には目標を表記し、スタッフが計画に沿ったケアを実践している。ヒヤリ・ハット事例等を記録した「できごと報告書」を利用し、月1回のユニット会議で話し合い、介護計画の見直しに繋げている。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実践や評価、気づき等を記入している。また、月に1回入居者に対しての気づきについてスタッフ全体から意見を徴収している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して柔軟な支援に努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校、保育園との交流、美容院など、地域資源の活用を行っている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意見を聞きながら、かかりつけ医との連携を行っている。	往診の利点を理由に、入居後に協力医療機関の医師をかかりつけ医に変更する利用者が多い。協力医療機関の往診が隔週水曜日、歯科往診が週3回ある。通院は基本的に家族が対応している。受診結果は事業所と家族で内容を把握できるようにしており、事業所内においても職員間で情報を共有している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師の出勤している平日は朝の申し送りに加え、必要時に随時情報を伝え連携を図っている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、こまめに面会に訪れ病院の看護師、ご家族との情報交換を行っている。また、退院時にも事前に病院にて看護師との情報交換を行っている。		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に伴って、想定される事、ケアの在り方についてご家族、Drと相談しながら、ケアを行っている。</p>	<p>利用開始時に重度化や終末期を迎えた際の対応方針等を利用者本人と家族に口頭で伝えている。そして重度化や終末期に際して、本人や家族と十分な話し合いを行い、同意書を作成の上、できる限り本人や家族の希望に沿った終末期の支援を行なっている。職員に対してはターミナルケアの研修を実施し、職員のストレスを軽減し、適切なケアが行えるよう心がけている。これまでに10名の利用者を事業所内で看取ってきた。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1回、事業所として、緊急時の学習会を開催。また、1階ユニット独自にも緊急時の学習会を行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>全職員を対象に定期的に避難訓練を行い、安全に利用者の避難が出来る様努めている。また今年度は地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら協力体制強化を行った。</p>	<p>年2回実施している避難訓練（うち1回は夜間想定）には、地域の消防団や近隣住民が参加している。非常時の連絡網に近隣住民の代表者が入り、地域との協力体制も築いている。また、事業所は昨年、「福祉避難所」として吹田市の指定を受けており、地域の避難施設としての役割も大きい。法人本部とともに備蓄にも取り組んでいる。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人としての尊厳を守るケアについて、随時ユニット会議にて話し合い、振り返りを行っている。</p>	<p>入職時のオリエンテーションで指導を行なう他、学習会や日頃の会議を通して、人格の尊重やプライバシーの確保に努めている。また、日々のケアの中でも気がついたところがあれば、職員同士が声を掛け合えるような関係づくりに取り組んでいる。</p>	
----	----	--	--	---	--

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>受容と傾聴、共感の姿勢を大切にケアにあたり自己決定ができるような関わりを行っている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>定期的に、入居者にとって何が必要なかケアについての確認、振り返りを行っている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者の好みを伺いながら身だしなみの支援を行っている。衣類の不備については随時、ご家族に持ってきていただくか、一緒に買い物に行く。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常の中で食事の準備や後片付けを入居者と一緒に行っている。又、入居者の意見を取り入れながら、フロア食やおやつ作りを企画、実施している。</p>	<p>アレルギーの有無や食材の嗜好を聴き取り、個別の対応を行っている。昼食と夕食のメニューは法人の管理栄養士が作成し、調理専門職員が1階厨房で一括調理している。利用者は厨房への料理の引き取りから配膳、盛り付け、片付けなどを職員と一緒にしている。朝食は各ユニットで雑炊か食パンを利用者の希望に応じて用意している。畑で利用者が収穫した野菜も食卓に上る。また、利用者の希望に合わせて外食や手作り食、ケーキバイキングなどを楽しめる機会を作っている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全員の食事量や、数名の方の水分量をチェック表を用いて把握している。又、嚥下、咀嚼が難しい型に対しては状態に応じて刻み食、ミキサー食、ミキサー固形食を提供している。介助が必要な型に対しては食事介助を行っている。</p>		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>介助が必要な型に対しては、食事後、スポンジブラシなどを使い、口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>数名の方に対して、排泄チェック表を用いて、排泄パターンの把握や失禁の有無を観察し、失禁による不快感の防止に努めている。又、出来る限り、排泄行為を自分でして頂けるよう声掛けなどを行っている。</p>	<p>介助が必要な利用者には排泄チェック表を用い、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを設置する等、できるだけトイレでの排泄を支援している。排泄が自立している利用者でも、パット等の処理が困難な人には声かけや見守りを行い、夜間もタイミングを計って排泄の声かけをしている。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤だけに頼らず、水分補給を促したり、数名の方にはイーージーファイバーを摂取して頂いている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の希望があった際、出来る限り入って頂いている。又、入浴へご案内する際は、必ず声掛けを行い、意向をお伺いする、</p>	<p>入浴は、週に2~3回は入浴できるよう支援している。午後に入浴する利用者が多いが、希望があれば午前中でも入浴可能である。拒否が強い利用者には体調や様子を観察し、個々の希望に沿った対応をしている。また、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じて入浴を楽しめる工夫をしている。同性介助である。現在個浴で必要に応じて2人介助も行っているが、今年度中にリフト浴での介助も可能となる予定である。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その日の状況や体調に応じて、臨機応変に休息する時間を設けている。</p>	
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬表を作成し、薬の目的や副作用について確認している。</p>	

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や趣味を考慮し、音楽や食事作り、花の観賞などの楽しみの提供につなげている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>スタッフの人員が余裕のある日には、入居者の希望する場所への外出を行っている。又、事前に計画を立て、ご家族とも協力しながら、外出の支援を行っている。</p>	<p>20分程度の散歩コースが複数あり、希望により毎日でも散歩が楽しめるよう工夫している。また、万博公園のイベントや地域行事など、機会を見つけ積極的に外出をしている。遠方への外出についても家族と協力しながら、できる限りの支援を行っている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数名の方は、ご自分でお金を管理されている。自身で管理が難しい方は、スタッフが管理をしているが、ご本人が希望される際は随時、お金を使えるようにしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望があった際には支援している。年末には、ご家族やお知り合いに年賀状を送るお手伝いをしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りのカレンダーや、季節に応じた掲示物などを飾っている。入居者の体調や気分、状況などに合わせ、ラジカセで音楽を流したり、好みのテレビ番組を流すようにしている。庭で菜園している花を花瓶に生けたり、冬至にはゆず湯、ひな祭りには雛人形を飾るなどし、季節感を感じていただけるよう工夫している。</p>	<p>各フロアーのエレベータ前ホールは、採光が良く、机・ソファ・本棚を設置し、外の景色を眺めながらゆっくり過ごせる場所になっている。夏にはベランダでゴーヤを育て緑のカーテンにしたり、居間には行事の写真や利用者の作品を掲示し、季節を感じられるよう工夫している。利用者が好む音楽を流したり、希望あればDVD観賞をして、利用者が寛げる環境作りを心がけている。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご自身で選ばれた落ち着ける場所で過ごされる時間を大切にしていると共に、落ち着ける環境作りに関しては、好きな音楽をかけたり、日差しのまぶしさ等の視覚への不快感に配慮する等している。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔から使われていた家具や寝具などを持ってきて使われている。</p>	<p>居室内のトイレ、洗面、ベッド、エアコン、照明は備え付けである。防災カーテンは家族が用意している。タンスやテレビなど利用者の使い慣れたもの、また、仏壇や家族写真など馴染みのものを置いて安心して過ごせるよう配慮している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の状態に応じて、手すりやL字柵を使用し、安全にできる限り自立した生活を送れるような配慮をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかぜ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体で方針会議、中間総括会議、総括会議を行い、理念の理解を深め、理念に基づいた実践、取り組みになるよう努めている。毎月行うユニット会議にて実践の振り返り等を行うにあたり、地域との関係を意識して、議論を行うようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、他事業所行事に参加したり、ホーム行事に招き地域との交流に努めています。また地域住民と挨拶をする関係になるよう散歩の機会を作る努力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地位住民の方から、講習会依頼や施設見学の要望がある時は、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用しています。行事等にはボランティアとして参加を依頼し、取り組みについて意見を求め、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、市の担当者と日頃から連絡をとり、関係づくりに努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	全体会議、ユニット会議、学習会等で、身体拘束をしないケアについて学ぶ機会を作っている。個別のケアカンファレンスを通して、実践を振り返り、意識を高めている。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学習会、ユニット会議等で実践の振り返りを行い、日頃のケアの中で見過ごされることが絶対にならないよう啓発に努めています。職員同士意見し合える関係作りに努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。また学ぶ機会も大切にしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容に関しては、契約時に説明を行い納得が得られるよう努めています。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望を日頃から話しやすい関係作りに努め、必要が生じたときの連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めています。入居者の希望や訴えを介護相談員、ボランティアの方の協力を得て、聴取し聞き逃さないようにし、実践に反映させている。</p>		
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>主任会議、運営会議、全体会議、フロア会議の場で意見や提案を出してもらい、話し合いを通じて、日頃の運営に反映されるよう努めています。ヒアリングも実施されている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>定期的に、個人面談を行う事やレポート提出により、仕事に対する思いや、提案、意見等を聞き取り、それらの尊重により向上心を持って働けるように心がけている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外における研修情報を提供し、積極的に参加するよう促している。職員一人ひとりに目を向け、課題の整理をともにし、それに合わせた研修の参加を勧め、業務上での指導、フォローに努めている。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡部会を通じて、情報交換を行いネットワーク作りに努めています。学習会の参加や、外部の研修参加では同業者の交流を深め、質の向上に活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前には自宅を訪問し、聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居当初に職員の紹介をしっかりと本人、家族に対して行い、名前で呼んでいただける関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の状態をしっかりとアセスメントし、本人の要望を受けとめたうえで、サービスを考え、職員同士で議論、見極める作業を通し、必要なケアができるよう努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>方針を理解し、意識したケアを行っている。入居者の声に耳を傾け、待つ介護が出来る様に努めている。入居者それぞれの得意な事、出来る事を認識し、それを引き出すケアに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員はケアの決定をするのは、本人もしくは家族であることを忘れず、日ごろの面会、行事等で家族との会話に努め、話し易い関係性を築くようにしている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者との会話を大切にし、笑顔を引き出すことの出来る思い出話を知ることによって努めている。その中から実践に繋がることがあれば、家族の協力を得ながら実践している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話のペースを大切にしながら、必要に応じて職員が間に入り、入居者同士の会話をつなげるようにしている。また、お互いの存在を意識出来る様、家事援助の一部など協力して行える作業を勧めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、次の入居施設へ面会へいたり、何か相談があった場合には、必要に応じて、出来る限りの対応をさせて頂いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活の中で見られる言葉、表情等を見逃さず、思いを汲み取る様努力している。また、家族との会話を大切に行う事で、希望、意向の把握につながっている。本人本位を忘れない為、センター方式のシートを使い、情報共有を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメント内容をしっかりと把握することに努める事と、入居者との会話から疑問に感じたことなどは家族に尋ね、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議等で、入居者の生活についてカンファレンスを行っている。職員それぞれが持っている情報を共有できるように、記録の方法も学び、適切な情報交流を検討し、実施している。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の日頃の生活で感じた評価できる取り組みや、見直さなければならぬ課題は、毎月実施している会議で話し合っている。また、急な事故やヒヤリ等ですぐに解決しなくてはならない問題に対しては、朝のミーティングで確認し合い、課題解決に繋げている。これらの情報をもとに、ケアプラン作成を行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>言葉の表現や書き方など記録方法を学びながら、職員全体で記録を行っている。記録には残せない職員の気づきや工夫は、連絡帳に記入をしたり、会議で出し合い、見直しに活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、話し合いを通して柔軟な支援に努めている。入居者の状態に合わせて訪問リハビリやボランティアの協力を得ている。車椅子等の福祉用具の購入も家族としっかりと検討し、導入している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>季節に合わせた外出に取り組んでいる。万博公園や地域の公園など、自然の多い環境を利用し、入居者から喜ばれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医については、昔からの馴染みのDr、事業所の提携している診療所のDrと自由に選択して頂いている。ターミナルにあわせても、家族の意向に沿って対応している。歯科の往診の受け入れもあり、本人の希望に沿って受けて頂いている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>個人記録に看護師も記入する欄があり、必要な情報が伝えられている。職員は身体状況で変化が確認された場合、看護師に報告するという認識がされている。必要な受診や処置が行えるよう支援している。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、こまめに面会に訪れ病院の看護師との情報交換を行ったり、ご家族との情報交換も行っています。また、退院時は事前に病院にて看護師との情報交換を行っています。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて施設としての指針を、入居時にご説明し、サインを頂いている。また、体調面での変化が見られる場合は、早い段階から現状や今後考えられる症状をDrから直接ご家族へご説明し、ご家族と情報を共有し方針を共に考えている。ユニット間を越え、施設全体で支える仕組みになっている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えての勉強会や、訓練を定期的に行っている。緊急マニュアルを作成。必要に応じて直しを行っている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難方法、連絡方法を確認し、安全に避難できるように努めている。地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら協力体制強化を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で議論し、細かなところまで人格を尊重したケアとなるよう考え、職員が統一した意識で行えるように努めている。日頃の声掛け合いを行い職員同士、注意し合える関係作りにも努めている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人でくつろげる居室、顔なじみで過ごせるスペース、集団で遊ぶことの出来る空間など、入居者思い思いで生活できる環境を作る事に努めている。その中で見られる行動から思いや希望を見つけいる。また、どこで誰と何をして過ごすかを選択し、自己決定できる場面が生まれる様心掛けている。		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は挨拶を大切に行い、その日の体調や気分を確認するようにしている。また、必ず伺いを立てる様な声掛けを行う。気分が落ち込まれている方には無理強いはいしない様に見守りながらも、その気になるよう時間を掛けながら関わり、希望を引き出すよう努めています。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>衣服の乱れがあるときは、なるべく他の入居者から見えないところで整える手伝いを行っている。衣類の破れやゴムの緩みは家族に協力を得ながら修理している。目ヤニや髪型にも意識し、整えている。また、女性の口髭の処理も支援している。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者、それぞれの得意な内容を判断し、作業の手伝いを依頼している。職員はフォローに入れる位置で見守っている。</p>		
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事に職員が同席できるようにしている。その中で食べておられる様子を見守り、残されている理由や嗜好を考えている。個別で食べやすい食器に変更したり、盛り付け方法を変えるなど栄養の確保に努めている。フロア独自でお茶以外の飲み物を準備。暑い時期と寒い時期とで内容を変え、提供している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>全員が毎食後に行う事は出来ませんが、残渣が残りやすく、臥床される方には口腔ケアを毎食後実施している。定期的に歯科往診を受けて頂くように勧め、職員は医師から口腔ケアの助言、指導を受けながらケアしている。</p>		
43	<p>16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ケアの必要な方はチェック表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。体力に合わせ、出来る限りトイレでの排泄をめざし、支援を行っている。</p>		

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談しながら、適量の下剤を検討している。状況に応じて減量、増量するなど体調に合わせた服薬が行なえている。トイレではマッサージなどを行っている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お二人の入居者は本人希望にて、固定の曜日で入浴されている。その他の方は間隔を見ながら進めている。本人の意志決定によって入浴を決める。嫌な方には本氏の入りたい気持ちを引き出すよう、時間をかけて声を掛けたり、気分を見極め誘導している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを知った上で、疲れてしまう前に、休息できる配慮を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、服薬内容（用法・用量）について表示しているが、薬の目的や副作用についての理解度は職員個人個人での差があり、看護師任せになっている部分がある。誰もが同じ対応ができるように書面でまとめるようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで長く詩吟をされてこられたが入居された時、ボランティアに依頼し、詩吟クラブを始めた。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望時は出来る限り対応している。職員体制の事情で行けない時は事情を説明し、次行ける時をなるべく約束するようになっています。また楽しみの外出は、ご本人が希望された場所にお連れ出来るよう、日ごろの会話に出た場所などを記録に残せるようにしている。季節に合わせた場所へのお誘いも行っている。		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族に了解を得て、お小遣いという形で個人持ちのお金をお預かりしている。外出先で入居者が使いたい時に使えるようにしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時には、希望に沿って支援している。年賀状は、希望を伺い、手伝いを行っている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活にメリハリがつくよう、食事をするところ、くつろぐところなど用途によって動けるような空間づくりを心掛けている。また、入居者者によって聴力の違いがあり、それに合わせて職員がテレビの音量を調整し、不快の軽減に努めている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室以外に一人でくつろげる場所を考え、椅子の設置を考えたり、自由に安全に移動できるよう整理整頓に努めている。本やセラピードールを準備するなど個別対応を行っている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が生活しやすいベッド配置を考えている。身体状況に合わせて変更することがあるも本人が不安にならないように配慮している。ラジカセや観葉植物、写真など本人が安心できるものを置くように工夫している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>異色などのリスクを意識しながらも季節を感じ取れる生花や飾りを置いている。また、職員の紹介の写真を必ず確認される方や、日めくりカレンダーをめくる役割を持たれる方など出来る事を見つける事が出来る環境づくりに努めている。監視ではなくあくまでも見守られているという安心を感じ取って頂ける環境を心がけている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針・総括会議を通して、法人理念・ホームの理念をの理解を深めている。また、法人理念を具体化するためのユニット方針を立て、職員間で理解を深めていくために、各月の会議内において実践の振り返り、検討を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りや地域の高校の吹奏楽部との交流等の地域の方との繋がりを大切にしている。また、地域の方の協力を得ながら野菜栽培もおこなったり、普段の散歩時のあいさつを励行したり地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組み、たんぼぼが地域の方に関して社会資源となるように取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、評価・意見等があった際にはサービス向上のため積極的に取り入れるようにしている。また、防災訓練に関する協力依頼・ホームの行事等への協力を通して運営推進委員の方との交流を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護フェアにも毎年参加する事で、吹田市の担当者はじめ他のグループホームとの関係づくりを行っている。特定施設部会にも参加し、情勢等の理解を深めていけるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について、ユニット会議・全体会議・学習会等の学ぶ機会を作り、身体拘束をしないケアの実践について検討を行っている。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の事を良く知る為に、ユニット会議・全体会議の場において理解を深める場を設けている。同時に、実際行っている実践内容の振り返りを行う中で、虐待等が無い様に啓発し職員間で確認を行っている。</p>			
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。また学ぶ機会も大切にしている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を通して家族と内容の確認を行う。家族から質問・疑問等があった時にはすぐに相談する場を設け、必要に応じて管理部に報告する。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見、要望が言いやすい関係の構築に努め、職員はいつでも相談できるように配慮している。また、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月開催されているユニット会議や不定期の常勤職員の会議において意見の集約を行い、必要に応じて運営等において意見の反映を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が一人ひとりの職員と話し合う場を設けて意見交換を行っている。また、職員が休憩時間に休息できるように休憩室の整備等の積極的に行う事で就業環境の改善をしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>就業前のオリエンテーションから、新人職員の研修の確立させている。職員の介護技術の向上・認知症の学習を深める為、定期的に学習会を開催して学ぶ場の提供を行っている。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>21・老福連での事例発表・GH特定施設部会への参加し、他の施設の取り組みを学び、職員間のコミュニケーションを深めている。また、施設間・職員間のネットワークを広げ、相互の実践の活動を通じてのサービスの質の向上の取り組みに努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時のケアプランの立案時、更新時には必ず本人の思い・家族の思いを聴く時間を作りケアプランに反得させ、より安心していただける事を一番にサービス提供に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>GHは認知症対応が淡施設である為、思いが十分伝えにくい本人ニーズを探り、家族の要望にしっかり耳を傾け、本人・家族と協力しながら、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族のニーズを把握するためのアセスメントを行い、本人の要望・ニーズが実現する事を大切にしたサービスとケアにの実現に務めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活する・生活を支援するという視点を大切し、入居者の困っている事・思いに耳を傾ける姿勢を大切にしている。また、入居者は私たちの人生の先輩であり、その人らしく生活が行えるような配慮に努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人を共に支える為の家族との関係作りを大切にし、日頃の面会時や行事等に意図的に交流を持ちコミュニケーションを深め、信頼関係の構築に努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の言葉に、耳を良く傾け、家族からも日頃の様子を聴き大切な馴染みの人との関係が途切れないよう、必要に応じて連絡を取り面会等につなげる事が出来るように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GHでの生活の中で、一人ひとりが役割や活動に参加する事で、入居者間の交流が行いやすいように配慮している。また、フロア的环境も談話できるスペースを設けより良い人間観関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、家族が施設に來られた際は積極的に交流を持つように努めている。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの色々な場面を通して、入居者の希望やニーズの把握に努める。自ら表現できにくい入居者に関しては、家族から入居までの生活歴を聴き取り、本人の表情や仕草等から得た情報を職員間で共有し、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントシートに加え、日々の生活の中で得た情報をま含めて情報の更新を行っている。また、家族から入居前の情報等を積極的に聴き取り、多面的に本人の状況・状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりがどのように生活したいか職員間で情報を共有し実践へと移している。また、その中で気づいた事・本人のニーズ等は記録を使い更新するようにする。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>GHでの生活を通して本人、家族、医療関係者の意見を集約し、月に一度のユニット会議内で検討する。その情報を基に本人がよりよく過ごす事が出来る様にケアプランの作成を行い、本人の生活支援を行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活支援を行う中で気づいた事・本人の言葉を積極的に介護記録に記載する事で食人間で情報の共有に努めている。またケアプランの更新時には記録を活用する事で、本人の意思に沿ったプランの更新に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して出来るだけ柔軟な支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の介護相談員、喫茶、唄体操、清掃等ボランティア資源を受け入れ、本院のニーズに合ったサービス提供に心がけ、より安全で豊かな暮らしを楽しんでもらえるよう支援につとめている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診が必要な状態と判断されたり、本人、家族が希望した際は、看護師と連携し、かかりつけ医や必要な専門医に受診、そのつど適切な医療が受けられるよう連絡調整を行い支援している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常のケアを行う上で体調の変化、病状の変化を速やかに看護職員に伝え相談し、必要な処置や適切な受診が出来る様に連絡調整を行い支援している。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時は、ホームの看護職員と協力の上、医療機関への情報提供を行い、出来る限りスムーズに治療が受けられるように配慮し、早期の退院にむけて努めている。また入院時には面会等に積極的に行くことで、医療関係者との関係の構築を行う。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や、終末期のあり方については、本人の様子や訴え等、変化に合わせて、主治医からの説明の機会を設け家族、本人と話し合い方針を共有し、GHで出来ることの説明と訪問看護等地域の関係者とも連携した取り組みを行っている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間を通して全体学習会、必要に応じてユニット会議において緊急時の対応・救急処置等の知識の向上を行っている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に避難訓練を行い、安全に利用者の避難が出来る様努めている。また地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら安全な生活が送れるように配慮を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人権を守るための生活について会議等を通して職員間で確認し、人としての誇りやプライバシーを大切に、暖かく丁寧な生活支援を心掛けている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、入居者の思いや希望が聞けるように配慮し、出来る限り自己決定ができる生活が送れるようにしている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者がどのような生活を行いたい希望を聞き取る姿勢を持ち、その生活の実現の為に会議ない・ミーティング内で検討を重ね実現できるようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>モーニングケア・ナイトケアの時間を大切にして、当たり前の身だしなみが行えているか確認し、本人と一緒に服を選んだりコーディネートするように心がけている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者が好きな食事を定期的に聴き取り、季節野菜の収穫・調理を通して食べる喜びを共に味わう取り組みを行っている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事が食べにくい入居者に対して、嗜好・食事形態・食事の摂取時間にわたり検討を行い、一人一人に合った食事提供に心掛けている。また、食事量・水分量は記録に記載することで状態の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、寝る前に本人の状況に応じた口腔ケアが出来る様支援している。また、定期的歯科往診を利用し、ドクターに情報提供を行い良好な口腔状態が保てる様に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要にゆきよ者に対して排泄チェック表を作成し、タイミング・排尿量等の把握を行い、必要に応じたパット・オムツの検討を行っている。また、出来る限りトイレでの排泄が行えるように介助を行いながら)対応を行う。</p>		

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘のメカニズムを学び、薬のみに頼らずに、水分量等も細かく確認しながら排便コントロール心がけ予防に取り組んでいる。</p>		
45	17 <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日や時間帯を決めることなく、一人ひとりの希望や体調、プライバシーに配慮した入浴を心がけている。</p>		
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの今までの習慣、本人の体調、前日の睡眠時間等考慮しながら、休息する時間を設けている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬表を作成し、入居者一人ひとりがどのような薬を服用しているか把握できるようにしている。また、体調面で変化があった時は看護師と連携しながら健康の維持に配慮している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その人らしさを大切にして、ひとり一人に生活の中での役割や楽しみ、入居者間との関係構築をめざした取り組みを行う。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>季節のいい日にはテラスに出て外の空気を吸ったり、畑煮ったりしながら季節を感じられるよう配慮している。普段はなかなか行けないところでも、職員、家族と協力体制を整え、実現をめざし支援を行っている。</p>		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本院がお金を管理している方については希望があった際には買い物に出かけるようにしている。自己管理が困難な入居者に関しては、職員が管理するが希望があった際には出来る限り本人の意向に添うように金銭の管理を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>一人ひとりの、家族や大切な人への思いをくみとり、電話や手紙・写真を添付等を通して思いが通じるような支援に努めている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地のよく清潔な住環境となるように配慮している。また、生け花や掲示物を通じて季節感を味わえるように制作を共にしたり展示を行うようにしている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの思いを大切に、共用空間の中でも独りになったり、好きな場所で気のあった者同志でゆっくりできる住環境の整備に強めている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、家族と相談しながら、居室には使い慣れた物や好みの物でそろえ、居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの能力を把握した上で環境を整備し、必要に応じて福祉用具を用いて、できるだけ自由に自立した生活が出来る様工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない